



すすんで学ぶ子  
心豊かな子  
たくましい子

# 中宮

令和4年10月3日  
第639号  
枚方市立中宮小学校  
校長 池原 義人

## 10月、いよいよ運動会、大きく成長するチャンスです

### 修学旅行に行ってきました

担任として行事の指導をするときは、いつも「なんのために？」ということを考えさせながら取り組ませていました。今はできなくなってしまった組体操の指導をしたとき、「For you～あなたのために～」というテーマで取り組みました。二人技の土台になっている子は、背中に乗ってポーズを決める子のために背中をまっすぐ板のように安定させる。友達の背中に乗る子は、なるべく痛みがないように、そして土台で踏ん張っている子のために何が何でも落ちないぞと美しいポーズを決める。三人技もタワーもピラミッドも、「あなたのために」という気持ちで取り組みなさいと何度も繰り返し指導しました。

ピラミッドの一番下の場所に、折れてしまいそうな細い体の子が立候補したとき、その取り組みの指導は成功したと思いました。そんな気持ちで取り組んだ男子76人7段・女子67人7段の2つのピラミッド、練習から誰一人として怪我をすることなく両ピラミッドともに成功しました。

コロナがあり、危険だという世間からの批判があり、あの素晴らしい取り組みができなくなってしまったのは残念ですが、各行事にはそんな素晴らしさがあり、意味があります。

修学旅行一日目は、広島平和記念公園へ行って平和記念資料館の見学や慰霊碑・祈念碑めぐりの平和学習を行ってきました。平和セレモニーでは、鎮魂の願いを込めた合唱や平和の誓い、全学年で折った千羽鶴を捧げました。

ときどき「何のために」ということを理解せず平和公園へ来て、他校の生徒と睨み合ったりしている中学生がいます。被爆し戦争の犠牲になられた方、その遺族の方々に対して失礼極まりないことをしてしまう人間に、その場に行く意味などないと思ってしまう。

本校の児童たちは、枚方からわざわざあの場へ行く意味をしっかり理解してくれていたようです。登校前、正門が開くのを待つ時間にも誓いの言葉を何度も繰り返して覚えていたり、ひとりで「ヒロシマのある国で」の歌を練習していたりする児童もいました。その場だけではなく、そこに至るまでにしっかり心をこめてくれたのです。その心が伝わってくる感動の歌声であり、立派なセレモニーでした。

修学旅行という行事を通じて大人への歩みを一歩進めた6年生、「なんのために？」を大切にしながら、次の大きな行事である運動会でも素晴らしい姿を見せてください。飛躍を期待しています。



### 授業中の座り方(姿勢)が気になります

GIGAスクール構想により、全国の小学生がタブレットを使っての学習をしています。それに伴い心配されているのが、健康被害の問題です。特に視力の低下が心配されています。文部科学省が注意喚起をしていますが、その中のトップに挙げられているのが姿勢です。

授業中、椅子の座面に足を上げている子、机の天板に突っ伏している子、机の脚の外側に足を出している子、教室を回っているときにすぐくになります。指を指して姿勢を直すよう促したり、手を添えて姿勢を正したりしていますが、同じ子が同じことを繰り返します。

小学校で勤務するようになって驚いたことはたくさんありますが、テストが終わったら読書をしてよいということもそのひとつです。中学校や高校で勤務していたことからテスト時間中に読書することなど信じられませんでした。特にビジネスマン教育を中心に教育活動を進めていた学校では、試験中の退出は認めず、時間内に問題すべてを解き終わったとしても見直すように指導していました。そのときによく使っていた言葉が「1度見直したら2度、2度見直したら3度、見直しは何度でもできる。試験終了時間が来るまで何度でも見直しなさい」でした。これは、就職試験の際、時間いっぱいまで全力の姿勢を見せるための指導でした。

この指導を疎かにしている教師のクラスでは、試験中の居眠り、意味なくボーっとしている、あくび、鼻ほじり、枝毛さがし、なぜか分かりませんが毎年同じようなことをする生徒が出てきました。ちなみに大企業の技術開発部に大抜擢された自クラスの生徒は、校内漢字大会で解き終わった100問の解答枠の下に、何度も同じ漢字を制限時間いっぱいまで丁寧に書き続けていました。「どちらの人間を会社が選ぶと思う？選ばれる人間になりたかったら制限時間いっぱいまで問題に集中しろ」という指導を続けました。

試験のときだけ、面接のときだけしっかりやればいいという考え方の大人もいますが、私はそうじゃないと指導していました。

それを納得させる時の実話。

付け焼刃は通用しない。北海道への修学旅行でのこと、ある女子生徒がバスで嘔吐しました。そのときに、成績は芳しくないが陸上部の長距離で頑張っていた同じクラスの女子生徒が、すぐにティッシュを取り出して嘔吐物の処理(今は感染の危険性から、あり得ない行為ですが)を手伝ってくれていました。その横に、資格試験で優秀な状況にあった同じクラスの女子生徒が鼻をつまんでいました。就職試験の時期を迎え、陸上部の女子生徒は、体力的に辛い現場職でしたが大きな会社への内定がすぐに決まりました。成績優秀な女子生徒については、自分の成績に自信があったのでしょうか、高望みをするが故になかなか就職が決まらず、最終的に専門学校への進学を選びました。

絶対に思ってはならないことです。でも、成績優秀な女子生徒が最後まで就職を決められなかったなか、健気に部活動を頑張っていて、友だちが辛いときに必死で助けようとした女子生徒が早々に就職を決めたことが、人間としてというよりも、逆に教師として嬉しかったです。どんなに勉強を頑張っていたとしても、鼻をつまんだ一瞬でその生徒の高校生活が見えました。就職試験の場でもそれは見えたのだと思います。「普段からの取り組みの積み重ねが、大切な時にこそ現れる」そんな話をしながら、試験中の態度を指導してきました。

テスト後に読書をするなら良い姿勢を心がけてほしい。

身につけてしまった悪姿勢による健康被害とともに、何年後かに本当の自分を見極められるそのときに心配です。

